

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	緑ドーナツ		
○保護者評価実施期間	2026年1月23日		～ 2026年2月5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数) 7人
○従業者評価実施期間	2026年1月23日		～ 2026年2月5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8人	(回答者数) 8人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月17日		

○分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	小集団へのはじめの一歩。家族以外の方との関わり	挨拶・返事・身支度など生活に必要なことをサポートしている。お子さまの「自分からやってみる」という気持ちの芽生えを大切に、無理強いせず、時間をかけて取組んでいる。	保護者様との情報共有は必須。小さな変化も共有しともに育児・療育を楽しんでいけるよう関係性を作る
2	個別対応⇒徐々に集団行動へ	お子さまの得意・不得意を把握し、楽しめる活動を考えている。手先の療育から粗大運動まで全身を使つての活動を日々考え実施している。マンツーマンでハサミチャレンジもしている。	当事業所だけでなく、同グループ内の事業所と合同活動を定期的に取り組んでいきたい。(今は不定期)いろいろな体験にチャレンジ!
3	年齢層の違う児童との関わりを体験。	年上下の児童と関わりを見守り、かかわり方を学ぶサポートをしている。	年上の人に対する言動・年下の子に対する振る舞いを時間をかけて伝え積み上げていく。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	室内環境の整備	限られた環境ではあるが、上手く活かしきれていない。	家具などを移動し模様替えを行う。
2	保護者様同士のかかわりの場を提供できていない。	事業所が手狭なことを理由に、取り組むことをあきらめている。	児発と放デイを分けての保護者会の開催。堅苦しくならないようお茶会からはじめ、交流を図る場を設ける。
3			

公表

児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名		縁ドーナツ		公表日		2026/2/27	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	3	児童の人数や、年齢によって活動場所を別々にしている。(例：児発⇒1F・放デイ：2F)	規定は満たしているが、部屋の造りとしては手狭。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	2	定員・特性・活動内容に対し5〜7名配置するようにしている。	個別での支援が必要なお子様が多い時は、人手不足を感じる。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	3	扉を外したり、活動を1・2Fに分けて対応。トイレについては、タイミングを見て声掛け誘導している。	建物の構造上見通しが悪い。トイレが一つしかないのが不便。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	2	ぶつかり合わないよう、児発と放デイでエリアを分けて活動するようにしている。清掃を欠かさず行い衛生的な環境を保つよう努めている。	体を動かす活動の時、利用人数によってはのびのびと動かせていない。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	1	活動内容により、2Fの指導室を開放している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8	0	毎月、事業所および職員個々の目標を決め振り返りを行っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	毎年行っている。保護者様・職員から出た内容を共有し業務改善につなげている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	毎朝ミーティングで情報共有に努めている。また、ざっくばらんな環境で話し合いができています。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	2			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	0	毎朝ミーティングで情報共有に努めている。また、ざっくばらんな環境で話し合いができています。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	0	全職員で意見を交換しプログラムを作成・公表している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8	0	直接支援にかかわる職員の意見を聞きながら作成している。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	2	保護者様の思いをもとに、直接支援にかかわる職員と意見を交わしながら方向性を検討している。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	2	支援の共有ができるよう、支援連絡ノートの活用とミーティングをこまめに行っている。	共有が不十分な気がする。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	1	標準化されたツールを共有し、お子様の適応行動の状況把握に努めている。	標準化されたものがなく、アセスメントが不十分なことも。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	0	全てのお子さまの個別支援計画に記載している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	0	活動内容についてはその日の担当が考えるが、内容については全職員が把握し役割分担の中支援している。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	0	毎日違う職員が活動を考え多方面からアイデアを出し合っている。		

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8	0	特性を考慮しながら、個別・集団活動に取り組んでいる。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	0	毎朝ミーティングで打ち合わせを行っていますが、送迎等で席を外しているときは必ず、日案リーダーが主となって情報共有に努めています。	送迎等で情報共有できないことがある。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	0	支援連絡ノートやヒヤリハットを活用し情報共有に努めている。	送迎等で情報共有できないことがある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	0	ご利用日の記録のほかにも、専門的支援についても記録に残している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0	保護者様からの相談についてもその都度対応している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	0	している。児発管以外に直接支援にかかわる職員も含め数名での参加や意見を集約して会議に臨んでいる。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	0	各関係機関と情報共有し、協力しながら取り組んでいる。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8	0	必要時またはご希望時、通園先に出向き情報交換・課題共有・支援共有を行っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8	0	行なっている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外務研修に参加させているか。	0	0		
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	0	0		
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	2	6		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	8	0	児童館や公園、公共施設を利用し交流できる機会を作っている。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	0	送迎時・連絡帳・line・電話・面談等で共有している。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	3	保護者向けの研修等があるときは、お手紙を配布している。		
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	0	契約時にお伝えしている。 疑問点・不明点等あるときにはその都度お伝えしている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	0	設けている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8	0	行なっている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	0	取組んでいる。保護者様からのご希望時、いつでも対応できるよう体制を整えている。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	0	8	保護者様のご希望を確認し、今後開催を検討予定。	手狭ということもあり開催するのに躊躇している。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	0	お電話での相談は営業時間内ではあるが、lineでのご相談は時間外でも対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	8	0	SNSでの発信はしていないが、毎月のドーナツよりは発行している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0	鍵付きの書庫に保管し管理者が管理している。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	0	マカトンサインや簡単な手話・絵カードを利用している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	3	建物の構造上困難なため、外出を多く取り入れている。近隣の方との関係は良好！	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	0	毎月テーマを決めて避難・防災訓練を行っている。（不審者・地震・火事・水害/降雷）消防署立ち合いの避難訓練を年2回取り組んでいる。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	0	毎月テーマを決めて避難・防災訓練を行っている。（不審者・地震・火事・水害/降雷）消防署立ち合いの避難訓練を年2回取り組んでいる。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	8	0	契約時に詳しく話を聞いている。医療情報を共有させていただいている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	0	必要に応じて相談させていただき、意見書・同意書を交わし対応している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	0	計画の作成及び計画に沿った研修・訓練を行っている。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	0	年度初めに保護者様に向けて配布。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	0	している。ヒヤリハット報告書を共有し大きな事故につながらぬよう意識を高めている。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	0	虐待防止・身体拘束適正委員会を設置し、法人内研修のほか、県の研修に参加し事業所内でフィードバックしている。		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8	0	会社全体で研修・訓練を行っている。契約時に詳しくお伝えし支援計画書に記載している。		